

## 第2回 検討委員会資料

### ③歴史博物館・幾久公園の動向や社会情勢について

令和7年9月29日

福井県立歴史博物館、幾久公園の基本的方向性検討委員会

- 社会情勢と博物館の現状
- 全国の状況
- 県域の状況
- 当館の状況

- 社会情勢と公園の現状
  - 全国の状況
  - 県域の状況
  - 当園の状況
-

## ■社会情勢と博物館の現状

### ■全国の状況

- ・博物館法の改正
  - ・収蔵庫の状況
  - ・文化財防災の現状
-

## 社会情勢と博物館の現状

### ①全国の状況

- ・博物館法改正：近年、博物館に求められる役割の多様化・高度化に対応するための**法的整備**。
- ・収蔵庫の状況：多くの博物館で**収蔵庫不足**の状況。
- ・文化財防災の現状：災害（主に水害、地震）による**文化財保存の困難化**。  
人口減少・高齢化の一層の進展による**文化財の担い手不足**（特に過疎地域で）。

### ②県域の状況

- ・福井県長期ビジョン：博物館を活用して、地域資源の魅力発信や観光振興を進める役割を担う。
- ・福井県文化振興プラン：文化芸術と教育、福祉、観光、まちづくり、その他の関連分野との連携・協働推進と地域文化の調査・研究機能を強化することで、文化施設を核とした文化芸術振興に取り組む。
- ・学芸人員の配置：人口比に対し博物館が多い特徴があるが、一部の館を除き**各館の専門職員の配置は少ない**。
- ・市町博物館の現状：**専門人材や収蔵施設が不足**。
- ・県内大学の現状：**歴史系学部・学科がない**ため、文化（財）の担い手の養成や調査研究活動において博物館が担う役割は大きい。

### ③当館の状況

- ・中核施設としての現状：平成11年基本構想・計画検討報告書をもとに、当館全体の現状を確認。
- ・施設の現状：前回改修で展示のみ更新され、概ね好評だが**収蔵施設等は老朽化**。
- ・学芸員数の現状：展示・収蔵面積に比して**学芸員数が少ない**。
- ・公園との連携の現状：**公園との一体的利用がなされていない**。

## 博物館法の改正

### ■博物館法改正により博物館に求められること

「博物館法」の改正において、「文化芸術基本法」に基づくことをはじめ、博物館資料のデジタルアーカイブ化、他館等との連携や地域の多様な主体との連携による活動を通じた地域力の向上が求められている。

## 博物館法の一部を改正する法律の概要

文化庁資料より抜粋

### 趣旨

近年、博物館に求められる役割が多様化・高度化していることを踏まえ、博物館の設置主体の多様化を図りつつその適正な運営を確保するため、法律の目的や博物館の事業、博物館の登録の要件等を見直すなど、これからの博物館が、その求められる役割を果たしていくための規定を整備する。

### 概要

#### I 法律の目的および博物館の事業の見直し

- 博物館法の目的について、**社会教育法に加えて文化芸術基本法の本質に基づき**ことを定める【第1条】。
- 博物館の事業に**博物館資料のデジタル・アーカイブ化を追加するとともに、他の博物館等と連携すること、および地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り地域の活力の向上に取り組むことを努力義務**とする【第3条】。

#### II 博物館登録制度の見直し

博物館の設置主体の多様化を図りつつその適正な運営を確保するため、博物館の登録要件を見直すとともに、これに伴う登録審査の手続き等についての規定を整備する。

#### III その他の規定の整備

- 学芸員補の資格要件を短期大学士を有する者で博物館に関する科目の単位を修得したものとする【第6条】。
- 国・都道府県等教育委員会による研修の対象に学芸員・学芸員補以外の者を含めることとする【第7条】。
- 博物館に相当する施設として指定された施設（指定施設）について、他の博物館等との連携を努力義務とする等の規定を整備する【第31条】。

#### IV 施行日・経過措置

施行期日：令和5年4月1日

経過措置：既に登録されている博物館は施行から5年間は登録博物館とみなす。等

## 収蔵庫の状況

### ■「博物館総合調査」にみる収蔵量の状況

- 『博物館総合調査』（令和元年度）では、収蔵庫の資料が「ほぼ満杯の状態」「収蔵庫に入りきらない」の合計は全体の57.2%。
- 人文・自然系博物館（「総合」「郷土」「美術」「歴史」「自然史」）でみると、その割合はさらに高くなる（59.1%）
- 6割の館の収蔵庫が「満杯状態」になっている。2004（平成16）年から2013（平成25）年調査時よりも「満杯状態」の館の割合が高くなっている。

表 3-12-16 収蔵庫の状況－収蔵に用いられている割合－（全体／館種別／設置者別）「Q11-7」（%）

		N=	3割未満	3割以上、 5割未満	5割以上、 7割未満	7割以上、 9割未満	9割以上 (ほぼ、満 杯の状態)	収蔵庫に入 りきらない 資料がある	無回答
全体		2,314	7.0	2.5	7.0	19.1	33.9	23.3	7.1
館種	総合	129	4.7	0.8	7.0	16.3	29.5	38.8	3.1
	郷土	248	5.6	2.4	6.0	14.1	29.8	36.3	5.6
	美術	497	2.8	2.4	8.0	22.9	40.4	19.1	4.2
	歴史	1,108	6.3	2.5	6.2	19.8	35.0	23.0	7.1
	自然史	101	15.8	4.0	13.9	16.8	16.8	23.8	8.9
	理工	102	23.5	2.9	6.9	17.6	21.6	12.7	14.7
	動物園	41	12.2	0.0	4.9	14.6	41.5	7.3	19.5
	水族館	44	18.2	4.5	6.8	18.2	31.8	6.8	13.6
	植物園	34	11.8	5.9	2.9	14.7	29.4	17.6	17.6
動水植	10	20.0	0.0	10.0	0.0	40.0	0.0	30.0	
設置者	国立	63	4.8	4.8	4.8	20.6	36.5	22.2	6.3
	県立	343	6.7	1.7	5.5	24.2	36.2	19.2	6.4
	市立	1,003	6.5	1.6	6.5	17.3	33.7	28.2	6.2
	町村立	312	8.0	2.6	7.1	18.9	31.7	26.6	5.1
	公益法人	425	6.6	3.3	7.5	20.2	37.4	16.2	8.7
	会社、個人等	168	11.3	6.5	11.9	16.7	25.0	14.3	14.3



## 収蔵庫の状況

### ■コレクションナリウム – 兵庫県立 人と自然の博物館(ひとはく)

県立人と自然の博物館は、「人と自然の共生」をテーマとした自然史系の博物館として平成4年(1992年)に開館。令和4年には「標本・資料の持つ価値を、すべての人とひらく」をコンセプトに、コレクションナリウム※を開館。

コレクションナリウムは、標本・資料の収蔵機能に加え、展示ギャラリーや作業の様子を見学できる標本制作室などを併設。1階では標本やデジタル画像を利用した展示を行い、隣り合うワークルームでは標本を生かした体験プログラムなども行われている。



※Collectionarium／コレクションナリウム = collection(標本) + arium(～まつわる場所)を掛け合わせた造語

<https://www.hitohaku.jp/exhibition/collectionarium.html>

## 収蔵庫の状況

### ■愛知県で全国初となる共同収蔵庫の整備を推進

愛知県は愛知県美術館、愛知県陶磁美術館および愛知県立芸術大学が、引き続き美術品等の保存および収集活動等を継続できる収蔵スペースの確保に向け、全国初となる共同収蔵庫の整備を推進。

候補地が常滑市奥栄町（元愛知県立常滑高校敷地 敷地面積：5万9043平方メートル）に決定。2030年度完成を目標に、収蔵環境を一部公開する機能を付与することも予定している。



<https://www.pref.aichi.jp/press-release/syuuzouko-kouhochi.html>



## 収蔵庫の状況

### ■ 栃木県立博物館の収蔵庫の拡大とコレクションマネジメント

栃木県立博物館は、昭和57（1982年）、考古、歴史、民俗、美術・工芸の人文系4分野と、動物、植物、地学の自然系3分野を備えた総合博物館として開館。以来、40年近く経過する中で、資料の増加等により収蔵環境が悪化してきたことから、令和2年に収蔵庫を新設。旧収蔵庫2,500㎡に加え、1,558㎡の新収蔵庫により収蔵スペースが1.6倍に拡大し、稼働率もそれまでの140%から85%に低下。

収蔵庫の新設の検討にあわせて、コレクションマネジメント関係規定も改訂・整備。収蔵スペースを意識し、収蔵の必要性を十分に検討したうえで収集するなどの運用がされている。



[https://www.bunka.go.jp/gyoji/pdf/93906901\\_05.pdf](https://www.bunka.go.jp/gyoji/pdf/93906901_05.pdf)

<http://muse.pref.tochigi.lg.jp/>

## 文化財防災の現状

## ■川崎市 風水害の被災を踏まえ収蔵庫を含む博物館の整備を検討

川崎市市民ミュージアムは、令和元（2019）年の関東地方で発生した東日本台風により地階に設置していた収蔵庫が浸水し、収蔵品約 24 万 5 千点が被災した。被災後には、国立文化財機構などの全国の博物館、美術館関係者の協力により、被災収蔵品の地階収蔵庫からの搬出、応急処置や修復などを実施。令和 7 年 3 月時点でも被災した収蔵品の応急処置、修復などのレスキュー活動が続いている。

こうした状況をふまえ、新たな博物館、美術館の役割を整理するとともに、可能な限り被災リスクの少ない場所での新たなミュージアムの整備に向けて検討を進めている。



## 新たなミュージアムに関する基本構想（概要版）

#### 4 これまでの経緯

- [illegible]

新たな博物館の必要性	・多様性に満ちた川崎の歴史と文化を未来に引き継ぐとともに、知ることも、学ぶことが楽しみ、様々な交流が生まれる場を提供する地域の博物館としての役割などを担う新たな博物館が必要
新たな美術館の必要性	・誰もが優れた文化芸術を体験・体感し、楽しむことができ、多様なつながりを創出できる場を提供するアートの中心的存在としての役割などを担う新たな美術館が必要

圖 2

役割1	川崎の歴史と文化を家来へつなぐ	【方向性1】 都市川崎の歴史と文化の継承
役割2	文化芸術的な視点からの人材育成と市民協会の提言	【方向性2】 令和3年度日本芸術文化振興会の事業の継承 【方向性3】 創造力と文化の感性、好奇心の醸成と人材育成 【方向性2】 自ら学ぶ協会の創出
役割3	文化芸術を活用したまちづくり	【方向性1】 文化芸術活動の活性化や子育ての拡大 【方向性2】 多様なニーズの対応 【方向性3】 成熟した地域社会の構築

## 5 市民意見等の把握と整理

- [illegible]

## 6 新たなミュージアムの方向性

- (1) 新たなミュージアムの検討における軸点の整理  
 <本市の主な特徴及び本市を取り巻く「社会環境の変化等」>
- 7つの区が特に特色あるものとした多様なポテンシャルをはじめ、若い世代が多く活気のある密着型、多様な価値観を受け入れる土壌があるほか、「市民財団」による活発な自治の取組などの特徴がある。一方で、急激な社会環境の変化への対応をはじめ、人口減少・超高齢社会への対応や、誰もが社会参加できる環境づくり、市民や地域とのつながりの強化などが求められている。

＜委員会での意見交換＞	
委員会での意見交換	
新たなニュージャムの あり方	世帯別、業種別に分ける、ものを整理して、箇条書き、あるいはいろいろな機能を盛り込んだ統合的な「ニュージャム」を掲げ、社会の課題と結びつけた市民サービスへの活用や特約店を拡大し財政や市民・ニュージャムの活動の活性化に結びつける
新たなニュージャムの 事業計画	収集・搬出・資源利用、再生・事業計画の4つからニュージャムの組織的な事業展開や事業展開の配性を持たせたいことが重要/事業展開を見せたいことが重要/資源活用、係る中長期の事業計画が必要
新たなニュージャムの 組織体制	現時点で機能別のエリア別で行ってほしいという意見がある/様々な用途に利用できるような施設が必要

### ＜他施設等へのシェアリング＞

[illegible]

100%

市民ミュージアム現  
施設の利用状況等

### (2) 方向性

- ① 博物館、美術館の組合として「川崎市美術館・ミュージアム」として、本市の特色やこれからの市民ミュージアムの活動を活かす取組や、本市を取り巻く社会環境等への対応に寄与する取組を展開し、**地域や社会への貢献を高める。**
- ② 「体験・体感」など市民が興味・関心を持ちやすいようなアプローチを積極的に取り入れ、**市民に身近なミュージアムを創出する。**
- ③ 様々な「つながり」を創出し、誰もが文化芸術に接し、楽しみ、楽しむ環境づくりのための取組の展開を促す。



# 文化財防災の現状

## ■文化財保存の困難化に対応する取り組み

「文化財防災の現状と課題」(文化財虫菌害研究所編2021)

### 文化財防災の現状と課題

独立行政法人 国立文化財機構  
文化財防災センター長  
高妻 洋成

#### 1. はじめに

日本では、毎日と言ってよいほどどこかで地震が起きており、周期的に大きな地震が起きる。2011年の東日本大震災は、東北地方太平洋沖地震で発生した巨大津波がもたらした甚大な災害であった(図1)。その他にも熊本地震、鳥取中部地震、北海道胆振東部地震等の大きな地震が発生している。また、毎年、台風が襲来し、暴風による風倒害や大雨による水害が発生している。近年では、温暖化の影響が大きいと考えられている線状降水帯による豪雨が毎年のように発生するようになってきた。これらの自然災害に加え、火災も日常的に起きている。2019年10月の首里城正殿の焼失は記憶に新しい。

「防災」という概念は、「減災」、「救援」、「復旧」という3つのプロセス全体をさす言葉となっている(図2)。この3つのプロセスを経て、災害に対してより強靱な社会を作っていくというのが「防災」の考え方である。

災害により多くの文化財も被災する。平成30年に文化財保護法が改正され、都道府県が文化財保存活用大綱を策定し、それを受けて市町村が文化財保存活用地域計画を策定できるようになっ



図1 東日本大震災の巨大津波により破壊された町(石巻文化センター跡より撮影)



図2 防災の概念

た。これらには文化財の防犯・防災についても記載することが求められている。地域社会総がかりで地域の文化財を確実に継承していくことが図られている。また、都道府県、市町村には地域防災計画も策定されており、制度の充実が図られてきているといえよう。本稿では、文化財の防災の現状を紹介するとともに、今後、取り組んでいかなければならない課題について言及していきたい。

#### 2. 災害による文化財の被害

自然現象で生じる文化財への被害としては、まず物理的な破壊があげられる。平成28年(2016年)熊本地震では、熊本城の北十八間櫓等の重要文化財13棟が倒壊、一部倒壊、屋根・壁が破損した他、熊本県内の多くの石橋等の構造物に崩壊、崩落、亀裂の被害が生じた。また、熊本県には多くの装飾古墳が存在しているが、石材を積んで作られた石室が崩落の危機に瀕しているものや墳丘に大規模な亀裂を生じているものがある。建造物や石製の構造物とは異なり、古墳の復旧作業は困難を極めていく状況にある。また、博物館や美術館あるいは個人宅に収蔵・展示されている美術工芸品や民俗文化財等には、落下や転倒等によ

#### 1.はじめに

平成30年に文化財保護法が改正され、これには文化財の防犯・防災についても記載することが求められている。地域社会総がかりで地域の文化財を確実に継承していくことが図られている。

#### 2. 災害による文化財の被害

自然現象で生じる文化財への被害としては、まず物理的な破壊があげられる。熊本地震では、熊本城の北十八間櫓等の重要文化財13棟が倒壊をはじめ各種被害が生じた。次に被害として水損被害がある。東北地方太平洋沖地震で発生した巨大津波は多くの文化財に水損被害をもたらした。九州北部豪雨や西日本豪雨でも文化財に深刻な水損被害が生じている。

#### 3. 被災文化財の救援

災害により被災した文化財をどのように救援するかは、文化財の種類、文化財を構成している材料、損傷の程度によって対応が分かれてくる。美術工芸品等の多くは、有機質の材料や金属から構成されており、水損している場合においては、先述したような腐朽、腐敗、腐食といった劣化が急速に進行する。したがって、できる限り迅速な救援を要するものであるが、発災直後、市町村の文化財保護部局の担当者は避難所の設営や運営等に從事せざるを得ず、被害状況の確認もできないという現実がある。

#### 4. 文化財を災害から守る

救援は、被災した文化財を出来るだけ早く回収し、応急処置をほどこすことである。救援にあたっては、回収した文化財の緊急避難場所を確保することが大きな課題となる。災害発生時には、人命救出とライフラインの復旧が最優先となる。そのような状況の中で、被災した文化財を避難させる場所の確保には、様々な工夫が必要となる。

#### 5. 文化財防災センターの役割

東日本大震災の文化財レスキュー事業以降、平成26年度から国立文化財機構では、新たに文化財防災ネットワーク推進事業(文化庁文化芸術振興費補助金、美術館・歴史博物館充填分野推進支援事業)に取り組んできた。

## ■ 県域の状況

- ・長期ビジョン
  - ・文化振興プラン
  - ・県内他博物館の状況
-

## 「福井県長期ビジョン」

### ■「福井県長期ビジョン」との整合

福井県の長期ビジョンにおいて、「文化観光の推進」として、美術館や博物館など県立文化施設を計画的に改修し、誰にでも開かれた交流の場として利用を促進し、北陸新幹線開業後、交流を拡大する基盤を強化するとしている。

※福井県長期ビジョン 第2部 実行プラン(2025～2029年度)より

福井県HPより <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/vision2019/top.html>

### ※福井県長期ビジョン

第2部 実行プラン(2025～2029年度)より

### ■政策12:文化芸術・スポーツ力の強化

#### ○文化観光の推進

- ・美術館や博物館など県立文化施設を計画的に改修し、誰にでも開かれた交流の場として利用を促進
- ・一乗谷朝倉氏遺跡や永平寺などの調査・研究を推進し、展示・教育普及への活用と地域文化の価値・魅力の国内外への発信を強化 など

#### 【施策12-1】県民主体の文化活動や表現・参加機会の拡大

##### ④誰もが文化芸術に親しめる環境の整備

県立文化施設を身近な文化芸術振興の拠点として活用してもらえよう、運営サービスや利便性を一層向上するとともに、他の文化施設や地域との連携を強化します。また、デジタル技術を用いて、収蔵資料等の文化財の保存・活用・発信を進めるなど、地域間格差の解消に努め、誰もが身近に鑑賞、創造、参加できる機会を創出します。

#### 【施策12-2】文化芸術の次世代育成と保存・継承・活用

⑦文化施設の機能拡充 観光・まちづくり、国際交流などの分野においても中核としての役割を果たす存在となるよう、県立文化施設のあり方を検討し、必要な機能強化を図ります。

#### 【施策12-3】文化芸術による交流機会の拡大

##### ⑤文化芸術と地域経済の有機的な連携創出

アーティストやデザイナーと企業等との協働や、伝統工芸産地と県立文化施設との連携による新たな観光コンテンツの開発などを進め、文化芸術と地域経済の好循環を創出します。





# 「福井県文化振興プラン」

## ■「福井県文化振興プラン」との整合

「博物館法」の改正に伴い、「文化芸術基本法」に基づき策定した「福井県文化振興プラン」の基本理念、目指す姿をはじめ、関連施策を踏まえていくことが求められている。

福井県HPより <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/bunshin/bunka-plan.html>

### 基本理念

## みんなで創る 文化でつながる 人と地域が輝く福井

悠久の歴史に育まれた「暮らし」「豊かな自然」「風土」を活かしながら、文化芸術に触れ、楽しみ、自ら創造・発信する県民の主体的な活動を応援。文化芸術が暮らしの中にも浸透して、県民のウェルビーイングと地域の活力が相乗的に高まる好循環を創出する社会を目指します。

### 目指す姿

それぞれの豊かさに出会い、自分らしく育む。

『誰もが文化芸術に触れ合い、自ら参加・創造し、心豊かに暮らす福井』



### 施策の方向性（重点プロジェクト）

1 それぞれの楽しみをもっと応援！

2 みんなが表現・参加できる機会をふやす！

3 文化芸術の担い手を育てる！

4 地域の文化をのこす・つたえる！

5 文化芸術で地域独自の魅力アップ！

ここにある輝きを、これからへ贈る。

『みんなで地域の文化を守り、育て、未来へ引き継ぐ福井』



文化でつながる。文化でつくり出す。

『文化芸術の新たな価値を創造・発信し、県民と訪れる人がともに楽しむ福井』



6 文化芸術で世界とつながる！

7 文化芸術×経済により新たな力を！

※ は関連施策



文化芸術活動を  
実践する方への支援の充実

- 分野を超えて交流できる機会の創出
- 相談、助言、マッチングなどの伴走支援の強化

文化芸術活動への参加促進

- 県内アーティストと活動したい県民とのマッチング支援
- アートを介して人と人をつなぐアート・コミュニケータの活動促進

多様な担い手による  
創造的な活動の促進

- 文化芸術を活用した高齢者の生きがいづくり、健康づくり
- 障害のある方の創造や発表活動への支援の強化

誰もが文化芸術に親しめる  
環境の整備

- 文化施設の運営サービス・利便性の向上
- デジタル技術を用いて、誰もが鑑賞・創造・参加できる機会の創出

次世代の育成

- 学校での子ども向け文化芸術体験プログラムの充実
- 地域における子ども向け文化芸術の体験機会の提供

若手アーティストの育成

- 分野を超えたアーティスト間の連携促進
- 若手アーティストの飛躍を応援するしるみの創設検討

有形・無形の文化財や文化的・  
歴史的景観の保存・継承・活用

- 地域の重要資料の受入・保管、活用検討
- 方言や伝統行事など豊かな地域の文化の発信強化

地域の文化を支える人材の確保

- 社会全体で進める伝統行事に参加しやすい環境づくり
- 国者の技術を受け継ぐ専門人材の確保

アートを活かした  
まちなかの活性化

- 地域活性化につながるアートプロジェクトへの支援強化
- まちなかや駅などのアートの効果的な活用促進

文化施設の機能拡充

- 県内文化施設間のネットワーク構築による利用促進
- 文化施設と地域の連携・協働推進

←有形・無形の  
文化財の保存  
・継承・活用

←文化施設の  
機能拡充

地域プロジェクト型  
アート活動への支援

- プロジェクトをさらに発展させるプロデューサー人材の育成
- アーティスト・イン・レジデンスの拠点拡大とネットワーク化

文化芸術を最大限活用した  
文化観光の推進

- 近隣市県との文化観光拠点との連携推進
- 文化施設における特別な体験コンテンツづくりと情報発信の強化

国際的な文化交流の充実

- 国際機関や大学との連携による文化交流の推進
- 国際的なイベントにあわせた文化交流の機会創出

文化芸術を応援する企業の拡大

- メセナ活動に関心のある企業のネットワークづくり
- メセナ活動を行う先進企業の顕彰

文化芸術と地域経済の  
有機的な連携創出

- アーティストと企業のマッチングによるクリエイティブ産業活性化
- 伝統工芸産地と文化施設との連携による新たな観光コンテンツの開発

←文化芸術を  
最大限活用し  
た文化観光の  
推進



## 県内他博物館の状況

■県内の福井県博物館協議会では、県立で12館※、市町立で28館、私立で11館、協議会全体で51館が加盟している。福井県立歴史博物館は、事務局として多様かつ多数の博物館の情報連絡網の総合窓口の役割を担っている。

福井県博物館協議会／加盟博物館一覧より

	区分	施設の名称
1	県立	福井県立歴史博物館
2	県立	福井県立美術館
3	県立	福井県立若狭歴史博物館
4	県立	福井県立恐竜博物館
5	県立	福井県立こども歴史文化館
6	県立	福井県教育博物館
7	県立	福井県陶芸館
8	県立	福井県年縞博物館
9	県立	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館
10	県立	福井県自然保護センター
11	県立	福井県海浜自然センター
12	県立	福井県ふるさと文学館

13	あわら市	金津創作の森美術館
14	あわら市	あわら市郷土歴史資料館
15	坂井市	坂井市龍翔博物館
16	福井市	福井市自然史博物館
17	福井市	福井市立郷土歴史博物館
18	福井市	福井市愛宕坂茶道美術館
19	福井市	福井市橘曙覧記念文学館
20	福井市	福井市美術館
21	勝山市	はたや記念館ゆめおーれ勝山
22	大野市	大野市歴史博物館
23	鯖江市	鯖江市まなべの館
24	越前市	越前市武生公会堂記念館
25	越前市	越前和紙の里紙の文化博物館
26	敦賀市	敦賀市立博物館

27	越前町	越前がにミュージアム
28	越前町	越前町織田文化歴史館
29	南越前町	北前船主の館右近家
30	池田町	池田町能面美術館
31	美浜町	若狭国吉城歴史資料館
32	美浜町	美浜町歴史文化館
33	若狭町	若狭町佐久間記念交流会館
34	若狭町	若狭三方縄文博物館
35	若狭町	若狭町歴史文化館
36	若狭町	若狭鯖街道熊川宿資料館
37	おおい町	おおい町曆会館
38	おおい町	おおい町立郷土史料館
39	おおい町	若州一滴文庫
40	高浜町	高浜町郷土資料館

※福井県立の博物館は14館存在するが（P12-15参照）、越前古窯博物館は組織としては、陶芸館の一部のため1つの館としてカウントしていない。  
福井県児童科学館エンゼルランドふくいと福井県教育庁埋蔵文化財調査センターは、福井県博物館協議会に加盟していないため12館と表記している。

41	私立	原子力の科学館「あっとほうむ」（福井原子力センター）
42	私立	吉崎御坊吉崎寺
43	私立	吉崎御坊蓮如上人記念館
44	私立	瀧谷寺 宝物殿
45	私立	大本山永平寺 瑠璃聖宝閣
46	私立	福井県秀芳館
47	私立	勝山城博物館
48	私立	越前おおの四季を彩る人形館
49	私立	伊藤柏翠俳句記念館
50	私立	敦賀郷土博物館
51	私立	越の秀嶺 西福寺

## 県内他博物館の状況

### ■歴史系施設(4館)

#### 福井県立歴史博物館

##### (概要)

昭和59年に総合博物館として開館。  
平成15年に人文系（歴史）に  
リニューアル。



##### (収蔵・展示内容)

常設展示の歴史ゾーンは福井の歴史を時代別に展示。トピックゾーンの「昭和の暮らし」コーナーは、昭和30～40年代の農家や町並みを再現。幅広い年代の来館者から好評を得ている。1階の「オープン収蔵庫」では、収集・保管、調査・研究といった博物館業務を体感できる。

#### 福井県立一乗谷朝倉氏 遺跡博物館

##### (概要)

278haという広大な範囲が国の特別史跡として指定保存された全国でも稀な戦国時代の城下町遺跡。令和4年に本館（新設）を「展示・ガイダンス棟」、分館（これまでの資料館を改修）を「調査・研究収蔵棟」として整備し開館。



##### (収蔵・展示内容)

出土遺物を中心に古文書・画像などの関係資料を展示。

(財)日本博物館協会／「全国博物館総覧」より

#### 福井県立こども歴史文化館

##### (概要)

平成21年に開館。福井ゆかりの人物の紹介を通して、子どもたちに福井の歴史や文化を伝え、自分の将来に大きな夢をふくらませてもらうことを目標にしている。



##### (収蔵・展示内容)

埋蔵文化財の展示、体験を通じて漢字の魅力の学習、産業や文化を介しながら、福井にゆかりのある人物を紹介するなど、多分野にわたって展示がされている。

#### 福井県立若狭歴史博物館

##### (概要)

昭和57年に開館。平成26年に館名を「福井県立若狭歴史博物館」と改めリニューアル。



##### (収蔵・展示内容)

常設展示は仏像や祭りなどの若狭の特色的な文化を紹介し、それらを育んできた若狭の歴史の理解促進を意図した構成。リニューアル前に比べ中近世の歴史資料展示が充実。

## 県内他博物館の状況

### ■関連歴史系・美術・工芸系(3館)

※福井市立郷土歴史博物館は、市立だが近隣の歴史博物館のため記載

(財)日本博物館協会／「全国博物館総覧」より

#### 福井市立郷土歴史博物館

##### (概要)

昭和28年に開館。平成16年に現在地に移転し新築。江戸時代の福井城下の一角に位置し、隣接する名勝養浩館庭園や福井城舎人門遺構(復元)とあわせて、江戸時代を体感することができる。



##### (収蔵・展示内容)

越前松平家伝来の資料群「越葵文庫」「福井市春嶽公記念文庫」といった福井藩ゆかりの資料が豊富。そのほか、市内の遺跡から出土した考古資料など、市域の歴史・文化に関わる多彩な資料を収蔵。

#### 福井県立美術館

##### (概要)

昭和52年に開館。その後、展示棟増改築および実技研修棟建設、収蔵庫増築を行っている。福井市内の文教地区に位置し、県民に親しまれる美術館活動を行っている。



##### (収蔵・展示内容)

岡倉天心関係作家作品(院展系)を中心に、福井ゆかりの作家・作品、西洋版画などを収集。岡島コレクションも重要。

#### 福井県陶芸館

##### (概要)

昭和46年に開館。郷土の自然を背景に培われた越前焼の歴史と伝統を伝え広め、あわせて産業の発展に寄与することが目的。



##### (収蔵・展示内容)

主な収蔵作品は古越前の平安時代から江戸時代までの各種壺、甕、すり鉢など。これらの中から約100点を常設展示。

#### (越前古窯博物館)

※陶芸館の一部

##### (概要)

越前古窯研究の第一人者である水野九右衛門が収集した資料を公開する越前焼の研究拠点(平成29年開館)。古越前の展示・研究をはじめ、茶室やコミュニティスペースも備えている。



##### (収蔵・展示内容)

水野氏が収集した国登録有形文化財である「福井県陶磁器資料(水野九右衛門)」を展示。そのほか移築した水野氏の住宅などをコミュニティスペースとして活用。



## 県内他博物館の状況

### ■教育系・科学館系・関連歴史(埋文)系(4館)

#### 教育博物館



##### (概要)

平成29年に統合後使用されなくなった旧学校施設を活用し、新規開館。学校教育および福井県にゆかりのある教育者の資料の収集・保存・調査研究・展示および教育普及活動を実施。

##### (収蔵・展示内容)

幕末から明治、大正、昭和の教科書や教具・教材、生徒作品などを通して福井の教育の歴史や福井ゆかりの教育者を紹介。

#### 福井県児童科学館 エンゼルランドふくい



##### (概要)

遊びの実体験を通して健康な体と豊かな情操を育むとともに、科学に対する関心や理解を深めることにより、子どもたちの健やかな成長を応援する施設として、平成11年に開館。

##### (収蔵・展示内容)

「数」「形」「力」など7つのテーマで科学の不思議を体感できる展示をはじめ、毛利名誉館長が宇宙で実際に使っていたものを展示した「毛利宇宙飛行士の部屋」などがある。

#### 福井県ふるさと 文学館・文書館



##### (概要)

平成27年に開館。県立図書館を改修し、図書館、文書館に併設。3館併設の特長を活かし文学と読書、郷土史を連携させた活動、福井ゆかりの作家や作品を身近により深く理解できる展示、若者の創作活動支援など、県民が文学に親しみ、学び、交流できる拠点を目指している。

##### (収蔵・展示内容)

福井ゆかりの作家や作品に関する直筆資料や愛用品などを収蔵。

#### 福井県教育庁 埋蔵文化財調査センター



##### (概要)

福井県の歴史や文化を知る上で、重要となる県内の遺跡を発掘・調査し、調査成果を整理し、保存や活用を進める目的で、昭和56年に開設。

##### (収蔵・展示内容)

ふるさと福井への誇りと愛着を持ってもらうため、発掘調査報告書に掲載された出土品等をわかりやすく展示する速報展などを実施。

## 県内他博物館の状況

### ■ 自然史および自然系(4館)

#### 福井県立恐竜博物館

##### (概要)

平成12年に開館。平成元年から恐竜化石発掘調査に取り組み、新属新種の恐竜を多数発見。この恐竜化石資源を活用し国内外にアピールするため博物館を建設。令和5年に増設。



##### (収蔵・展示内容)

恐竜の大きさが実感できる全身骨格標本50体、ジュラ紀の恐竜の世界を再現したCG映像や大型ジオラマ、その他福井県で発掘された恐竜化石から復元した全身骨格標本3体も展示。

#### 福井県立自然保護センター

##### (概要)

「身近な自然から宇宙まで」をテーマに自然保護の普及活動を実施。資料収集、調査研究事業を行い、県内の自然に関する情報センターの役割を担っている。



##### (収蔵・展示内容)

広く自然に親しみ、自然を大切にする心を育むことを目的に各種事業を実施。その中の展示では六呂師高原の立体模型、水田や小川、ため池、森やその中での動物の様子をジオラマや実物標本で紹介。

(財) 日本博物館協会 / 「全国博物館総覧」より

#### 福井県年稿博物館

##### (概要)

平成30年に開館。水月湖年稿に関する資料の収集・保管・研究・展示および教育普及や観光施設として活用2019年に博物館相当施設に指定。



##### (収蔵・展示内容)

年稿の概要を伝えるシアターをはじめ、最大の目玉となる7万年分の水月湖年稿の実物をステンドグラスにして展示。水月湖年稿の歴史である7万年間の人類や古生物の歴史も紹介。

#### 福井県海浜自然センター

##### (概要)

平成11年に開館。平成26年にうみ(海湖)の自然を守り育てる活動への参加を意図して、「うみ(海湖)の学びと癒しの新空間」をコンセプトにリニューアル。



##### (収蔵・展示内容)

三方五湖や若狭湾に住む水生生物や自然を紹介。実物模型や映像による展示だけでなく、実物の生き物も見ることができる。

## ■ 当館の状況

・人文系博物館・県中核博物館としての現状

---



## 県内他博物館の状況

### ■歴史博物館周辺の立地現況

教育、文化施設が多く、文教エリアといえる。



## 人文系博物館・県中核博物館としての現状

基本構想・計画検討報告書 p4、

■基本構想（性格および機能/各博物館施設の位置付け）再編整備基本構想検討報告書 p10より抜粋〔平成11年3月〕

### Ⅲ. 性格および機能（基本構想・検討報告書）

人文系歴史博物館であると同時に、県内博物館の中核施設としての性格も併せ持つものとする。

①人文系歴史博物館としては、以下のような機能を発揮する。

- 福井県の歴史や文化に関わる総合的な調査研究をすすめる、資料を収集（保管・保存・補修を含む）する。
- 福井県の歴史や文化に関わる情報を発信し、福井県民のアイデンティティ形成に寄与する。
- 生涯学習支援の一機関として、利用者が自ら学ぶことのできる環境（場と機会）を提供する。

②県内博物館の中核施設としては、以下のような機能を発揮する。

- 県内における県立の博物館施設間の連携をはかる基地となる。
- 県内における市町村あるいは民間の博物館・資料館等との連携の拠点となる。
- 博物館にかかわる情報・連絡網の総合窓口（集約）的な役割を果たす。

### 参考 Ⅲ. 各博物館施設の位置づけ（再編整備基本構想検討報告書（機能については基本構想・検討報告書と同一内容））

#### 1、活動範囲

人文系の歴史・考古・美術工芸・民俗等の分野を配し、福井県全域の歴史を取り扱う。

#### 2、館の性格

福井県の文化遺産、遺品などの総合的な調査研究・展示事業を通して、県民市民のアイデンティティ形成や県内外に向けて県のイメージアップに貢献・寄与する。

各施設のネットワークの中心施設と位置付け、県立施設間の連携と市町村博物館等の支援を行う。

県内各博物館に関わる情報発信等においては全県の観点にたった総合窓口的な役割を果たし、利用者の便宜を図るために情報サービスの拠点としての機能充実を図る。

従来の固定式の通史展示の手法を根本的に見直し、逐次最新の成果を取り入れる「生きた常設展示」の実現を図る。そのためには、部分更新を重ね多様なテーマを可能にする柔軟な展示環境（設備）の設計が望ましい。このことは、中核施設として県内各地域、各時代の様々なテーマ（資料）を対象とし、総合かつ個別集中的な調査研究・資料収集の成果を反映する上でも不可欠。



## 人文系博物館・県中核博物館としての現状

### ■基本構想と現状(人文系歴史博物館としての機能)

基本構想・計画検討報告書より作成〔平成11年3月〕

#### ●福井県の歴史や文化に関わる総合的な調査研究【調査研究】

太字は基本構想より抜粋。

【】内は基本構想における事業名を示す。

##### 中長期的（10～20年）な計画のもと調査研究を行う

現状）5年計画・3テーマ（政治史・宗教と文化・産業とくらし）で実施、日頃より館内外で県内各地域の資料を調査研究

##### 個別的（一分野的）なものと総合的（多分野的）なものを設定する

現状）展示に向けての短期的・個別的な調査研究が中心、学芸員の数が少なく各分野をカバーできていない

##### 調査研究の成果は、できるだけ速やかに常設展示や特別展示、あるいは年報や紀要等を通して利用者に公開・提供する

現状）年間で特別展2回・企画展1回・写真展3回を実施、年報・紀要は隔年で発行

※社会情勢の変化にともない、博物館に与えられる課題や寄せられる期待は刻々と変化するであろうが、本来の活動の原点は決して忘れてはならないだろう。（中略）博物館は時勢に流されず、ひたすら地道な研究・作業を継続することに、また一つの存在意義がある

（再編整備基本構想p4）

#### ●資料を収集（保管・保存・補修を含む）する【資料収集】

##### 福井県の歴史・文化にかかわる諸資料を収集。福井県に関わりのないものであっても比較・参考資料は対象に含める

現状）県内地域の資料の寄贈・寄託・購入を通して実施、日頃より地域の人々から寄贈や寄託の相談対応、

現在収蔵点数224,345点、収蔵率131%

##### 散逸や流失、破壊等の緊急事態に対応できる体制をとっておく

現状）流失防止のために他施設や県内外の書店、OB、有識者等から情報収集し、資料を受入、

収蔵庫が飽和（収蔵率130%以上）状態であるため、災害時等の大規模な資料受け入れが困難

##### 適切な保管・保存措置を行う

現状）脆弱な資料は特別収蔵庫に配置、毎日学芸員が家庭用除湿器を操作し湿度管理、

収蔵庫の空調設備が老朽化により故障、収蔵庫が地下にあり水害による水没の危険性が高い

##### 収蔵庫狭隘化の対策を講ずる

現状）日頃の収集の際、受け入れるかどうか吟味（同じ資料があるので受け入れないなど）し、収蔵資料を選別

不要となった造作物の廃棄等館内の掃除整理・空間確保を月2回実施、

収蔵資料は年平均4,985点増加し、収蔵庫に入りきらない資料がある

## 人文系博物館・県中核博物館としての現状

### ■ 基本構想と現状（人文系歴史博物館としての機能）

基本構想・計画検討報告書より作成〔平成11年3月〕

#### ● 福井県の歴史や文化に関わる情報を発信【展示】

太字は基本構想より抜粋。

【】内は基本構想における事業名を示す。

展示内容はできるかぎり実物資料を中心とし、

解説等は原則として‘中学生でも分かる’ということを基準とする

現状）可能限り実物資料展示（常設展示資料2,340点のうち、実物資料2,252点）、解説文は読みやすいよう3行程度、フリガナは中学生に対応しているが、年40～60校（2,300～3,100名）程度の授業での来館のうち、小学3・4年生の来館も多く対応は不十分

「動かす」「触れる」という展示方式を取り入れる

現状）盗難や破損の恐れがあり実施していない

毎年常設展示の一部テーマを更新する「フレキシブル展示」を導入する

現状）テーマの更新はできていない、常設展示資料は複数点を年1回以上更新

常設展示の一部に、利用者自らが企画や運営に参加できるコーナーを設置する

現状）一部特別展・企画展において地元小中学生の作品や思い出を記載し展示するコーナーを設置、恒常的ではない

#### ● 利用者が自ら学ぶことのできる環境（場と機会）を提供【普及】

各事業の記録と広報、情報および解説サービス、年報や広報誌等の編集発行、マーケティングリサーチを行う

現状）各展示を会場撮影により記録・年報に掲載、日中英語の音声ガイド・団体への解説実施、広報誌年2回発行、SNSで随時情報発信、企画展・特別展で3回程度展示解説実施、マーケティングリサーチは実施できていない

講演会・学習会・見学会等を企画する

現状）当館での講座を年3回以上、外部に出向いての講座を年6～16回程度実施、出前授業を年3～9校程度実施

自館や他館の施設・催事案内、常設展や特別展の展示概要、データベース化された収蔵資料の紹介等を行う

現状）ホームページやSNSにて随時紹介、WiFi環境整備、館内においては機器が故障し実施できていない

ミュージアムショップを設置する

現状）当館の展示や福井の歴史文化に関わるグッズ・冊子を販売

## 人文系博物館・県中核博物館としての現状

### ■ 基本構想と現状（中核施設としての機能）

基本構想・計画検討報告書より作成〔平成11年3月〕

太字は基本構想より抜粋

- 県立の博物館施設間の連携をはかる基地となる
- 博物館・資料館等との連携の拠点となる
- 情報・連絡網の総合窓口（集約）的な役割を果たす

#### 市町村や他機関との共同調査・研究の機会をつくり、学際的協力の場を設ける

現状）県内博物館美術館等施設51館が加盟する県博物館協議会の事務局を運営

文化政策・現場の課題等を議論する運営協議会を年2回開催

学芸員や文化財調査員等職員の資質向上や他県施設視察などの研修会を年2回開催

#### 市町村および博物館関係者あるいは教職員との交流の場・機会をつくる

現状）文化政策・現場の課題等を議論する運営協議会を年2回開催

学芸員や文化財調査員等職員の資質向上や他県施設視察などの研修会を年2回開催、

私的な学芸員の勉強会を1～2か月に1度実施、教職員が不在

#### 情報機器を活用して自館や他館の施設・催事案内を行う

現状）各館の情報を発信するホームページを運営（FUKUI MUSEUMS）、案内を行うエントランスの情報機器は故障

#### 市町村や他施設との共催展（共同企画展）、またこれ以外に他から誘致する企画展等を行う

現状）市町村や他施設との共同での調査・研究を実施、各施設間の資料の貸借はあるが、

各館の労力不足等から共同の展示や巡回展等誘致する企画展は実施できていない

#### 資料について、市町村や他機関と連携して、現地での保存と活用の方策を講ずる

現状）研修会や日々の業務の中で連絡を取り合いつつ、資料の保存や活用に協力、

地域のまちづくり協議会等が設置する地域の歴史案内看板の内容作成に協力、

少子高齢化や戸主の代替わりがあり現地での保存は困難化

## 人文系博物館・県中核博物館としての現状

### ■基本構想と現状（施設と組織・人員）

基本構想・計画検討報告書より作成〔平成11年3月〕

#### VI.施設と組織・人員

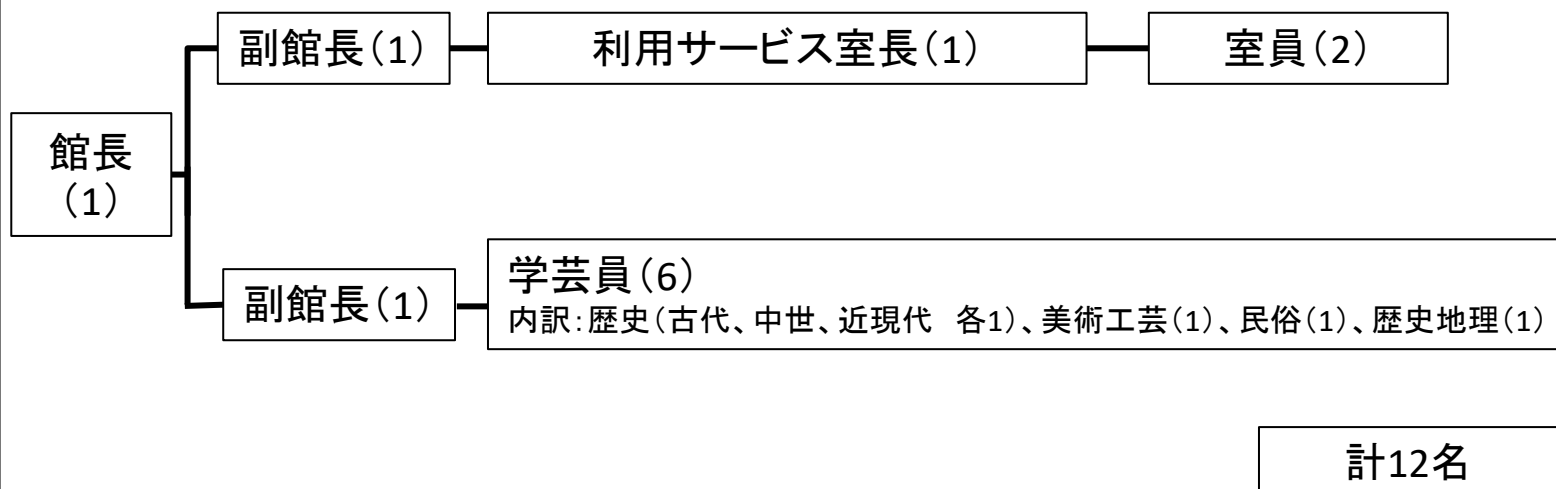
太字は基本構想より抜粋

組織面では、今後の事業推進の上で必要とされる再編を行う。歴史博物館としての専門特性を発揮し、県内博物館の中核施設としての役割を果たすためにも、たとえば展示・資料・普及の三部門からなる学芸組織の再編や、総合的なマネジメント部門の設置等が必要である。職員については、とくに平成15年(2003年)に予定されるリニューアルオープンに向けて、各事業における専門担当者の欠落や不足を補うことを中心に、計画的に人員拡充をはかる。このほかにも、再編整備後の館運営と事業推進を円滑に行うためには、各種の人材確保が必要不可欠であり、新たな制度の導入も含めて、早急な対応が望まれる。

現状) 部門ごとの学芸組織の編成やマネジメント部門は設置できていない

考古学、近世史、保存科学、自然環境学等の学芸員が不在

#### 現状の組織図





- 社会情勢と公園の現状
  - 全国の状況
  - 県域の状況
  - 当園の状況
-

## ■社会情勢と公園の現状

・全国、県域、当園の社会情勢(現状)

## ■全国の状況

・公園に関する社会情勢

---

## 全国、県域、当園の社会情勢(現状)

### ①全国の状況

- ・ 新たな時代の公園（緑とオープンスペース）は、人中心のまちづくりの中で、そのポテンシャルを最大限発揮するため、パートナーシップを重視した公園マネジメントで多様な利活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指すべきである。
- ・ 一方、博物館や美術館では、印象的かつ象徴的な展示や遊具を公園の中に一体的に整備し、人をきつける魅力的な施設が全国的に増えてきている。また、公園の整備にあたって、心身の障がいの有無、国籍、年齢に関わらず、どんな人でも利用できる「インクルーシブ」な公園が求められている。

### ②県域の状況

- ・ 福井県は、都市公園について「施設の老朽化の状況、利用状況やニーズの変化、将来の土地利用計画をふまえた改修または機能再編・拡充」「歴史・文化的資源の活用」「グリーンインフラの取組」を推進している。
- ・ また、福井県は、日本一幸福な子育て県「ふく育県」を目指し子育て支援に取り組んでおり、「福井県子ども・子育て応援計画」に基づき、「老朽化した遊び場等の修繕や改修を進め、安全で楽しい子どもの遊び場環境づくり」を進めている。

### ③当園の状況

- ・ 幾久公園は、1950年（S25）に県営総合運動公園として開園した。1956年（S31）の都市公園法の制定後、幾久公園周辺でも住宅地開発が進み、多くの都市公園が整備されてきた。そのような中、幾久公園は1984（S59）に県立博物館が立地するレクリエーション空間のある地区公園として再整備された。
- ・ 現在、公園施設は老朽化しているが、利用者に対し駐車場は手狭になっている。また、新たな公共交通としてシェアサイクルポートが整備されるなど、新しい動きがみられる。

# 公園に関する社会情勢

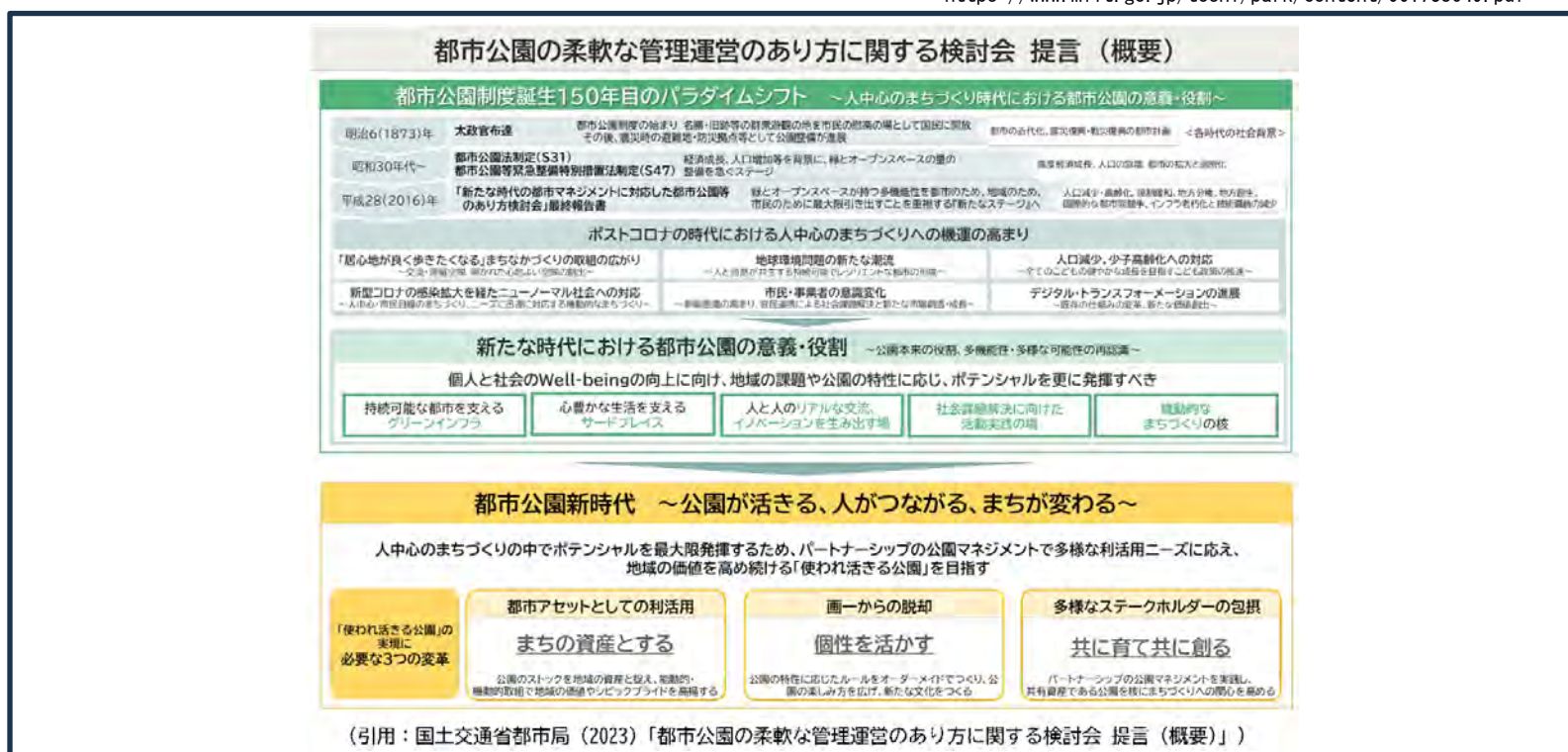
## ■都市公園の柔軟な利活用に向けた実践事例集

少子高齢化や人口減少、社会資本の老朽化の進行、財政面・人材面の制約の深刻化、国民の価値観の多様化等、社会全体が様々な課題や変化に直面する中で、都市の貴重な環境基盤である公園（緑とオープンスペース）も同様に多くの課題に直面している。

個人と社会のWell-Beingの向上に向け、地域の課題や公園の特性に応じ、ポテンシャルを更に発揮すべきであり、新たな時代における都市公園の意義・役割は「持続可能な都市を支えるグリーンインフラ」「心豊かな生活を支えるサードプレイス」「人と人のリアルな交流、イノベーションを生み出す場」「社会課題解決に向けた活動実践の場」「機動的なまちづくりの核」の5つである。

新たな時代の公園（緑とオープンスペース）では、人中心のまちづくりの中で、ポテンシャルを最大限発揮するため、パートナーシップの公園マネジメントで多様な利活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指すべき。

出展：都市公園の柔軟な利活用に向けた実践事例集  
<https://www.mlit.go.jp/toshi/park/content/001738649.pdf>





## 公園に関する社会情勢

### ■博物館・美術館と公園(遊び場)が一体化した事例

**富山県立美術館「オノマトペの庭」(富山県富山市)**  
「アートとデザインをつなぐ美術館」をテーマに、屋上はそのテーマに連携した遊び場となっており、大人も子どもも遊びながら全身でアートを体感できる。



**金沢21世紀美術館(石川県金沢市)**  
屋外広場は自由に出入りでき、子どもが屋外展示の中に入ったり触れて遊べる。屋外広場では野外コンサートやマルシェ等のイベントが開催される。



**横江荘史跡公園エントランスゾーン(石川県白山市)**  
史跡の特徴「条里制」をデザインした人工芝広場や大型遊具、地元の奉納相撲をモチーフにした土俵をエントランス部に配置。将来、ガイダンス棟が隣接して整備予定。



**安満遺跡公園(大阪府高槻市)**  
歴史拠点につながる広いアプローチに、人工芝広場や全天候型の遊び場、カフェ、ペットショップ等が並びアプローチでは多様なイベントが開催される。





# 公園に関する社会情勢

## ■みんなが遊べる、みんなで育てる 都市公園の遊び場づくり参考事例集

都市公園の遊び場は本来、こどもの能力や特性、背景などにかかわらず、あらゆるこどもに開かれたものであり、全国的に、公園の整備にあたり『インクルーシブ』（心身の障がいの有無、国籍、年齢に関わらず、どんな人でも利用できること）な遊び場が求められている。幾久公園の改修にあたり、あらゆる人が、容易に利用でき、多様な選択肢の中で一緒に安全、快適に利用できる場を創り出すことが求められる。

出展：みんなが遊べる、みんなで育てる 都市公園の遊び場  
づくり参考事例集

<https://www.mlit.go.jp/toshi/park/content/001738649.pdf>

出展：守谷市誰もが遊べる公園広場整備のためのガイドライン  
策定業務

<https://www.city.moriya.ibaraki.jp/shisei/keikaku/1004525/1009049/index.html>

### 2. 目指す遊び場の姿

#### 2-1 目指す遊び場の姿

都市公園の遊び場は本来、こどもの能力や特性、背景などにかかわらず、あらゆるこどもに開かれたものであることをふまえ、いわゆるインクルーシブな遊び場をつくるにあたって配慮すべき事項を以下のとおりとしました。

#### (1) 誰もが楽しめる魅力的な遊び場

- 身体を使った遊び、感覚を使った遊び、自然遊び、創造的な遊びなど、遊びの要素が豊富である
- 冒険や挑戦を促し、こどもにとって魅力的な遊びができる
- 障害の有無などにかかわらず、こどもが自分にあった遊びを楽しめる
- ほかの利用者との自然な関わりが生まれやすい遊び場となっている

#### (2) 安全で居心地の良い遊び場

- 遊びの価値を尊重して、こどもの挑戦をうけとめるリスクが適切に管理され、こどもが予期できないハザードが除去されている
- こどもが安心してのびのびと遊べる居心地の良い環境が確保されている
- 遊びのサポートが必要な場合に、見守りや付き添いがしやすいよう配慮されている

#### (3) 誰もが利用しやすい遊び場

- 地域全体の遊び場の状況や多様な利用者のニーズ（アクセス等）を踏まえた立地となっている
- 遊び場が公園の駐車場や出入口から、利用しやすい位置にあり、円滑に移動できる
- 遊び場周辺の園路やトイレなどがバリアフリー化されている
- わかりやすい案内サイン等に加え、安心して公園に来ることができるようウェブサイトなどで事前の情報提供が行われている

#### (4) 地域と共に作り、そだてる遊び場

- こども、保護者、子育てや福祉などの関係団体、地域住民や専門家等、多様な主体が参画し、計画づくりや管理運営に取り組んでいる
- これまで遊び場を利用できなかった利用者や地域の意見が取り入れられるよう配慮されている
- 遊び場をきっかけに地域の交流が進み、こどもの育ちを地域全体で支える意識の醸成につながっている

#### (5) 柔軟に管理運営され、進歩していく遊び場

- 地域と連携したプログラムの実施など遊び場の利用促進が図られている
- 利用者や地域のニーズに応じて、遊び場の利用の仕組みやルールが弾力的に運用されている
- より良い遊び場とするために、利用の実態、利用者のニーズ・評価などを定期的に収集し、管理運営にフィードバックされている

### インクルーシブな公園広場 整備のポイント

「インクルーシブな公園広場」に配置される玩具・施設は、障がいの有無に関わらず、あらゆる人が、容易に利用でき、多様な選択肢の中で一緒に安全、快適に利用できるものとします。



玩具については、「あそび」の5つの側面基本構成について考慮し、整備していきます。

#### 「あそび」の5つの側面基本構成



## ■ 県域の状況

・幸福度日本一ふくい・日本一幸福な子育て県「ふく育県」

---

## 公園に関する社会情勢

### ■福井県都市計画マスタープラン「県全体の基本方針」

「福井県都市計画マスタープラン」では、『施設の老朽化の状況、利用状況やニーズの変化、将来の土地利用計画をふまえ、改修または機能再編・拡充を推進』や『歴史・文化的資源を活用しながら都市公園等を整備し、グリーンインフラの取組を推進』することを定めている。

また、「福井都市計画区域の整備、開発および保全の方針」において都市公園は、「環境保全機能、レクリエーション機能、防災機能、景観構成機能および防犯機能の確保」、「歴史・文化的資源の活用」を踏まえて都市公園を整備することを定めている。

出展：福井県都市計画マスタープラン「県全体の基本方針」

[https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/tokei/masterplan/masterplankaitei\\_d/fil/kihonhoushin.pdf](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/tokei/masterplan/masterplankaitei_d/fil/kihonhoushin.pdf)

出展：福井都市計画区域の整備、開発および保全の方針

[https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/tokei/masterplan/honbun\\_d/fil/001.pdf](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/tokei/masterplan/honbun_d/fil/001.pdf)

#### 第9章. 自然的環境の保全または整備に関する主要な都市計画決定等の基本的事項

##### 1. 基本方針

福井県には、豊かな自然環境が数多く残されています。都市の生活環境に潤いと安らぎを与え、環境保全（温室効果ガスの低減、地球固有の生態系や生物多様性の形成）、レクリエーション、防災および景観形成等多様な役割を持つ自然環境の保全または整備を図ります。

##### 2. 主要な緑地の配置の方針

本県では、市街地が田園や里山の豊かな緑に囲まれ、またその外縁は、雄大な海岸や若狭湾の海と加え、環状および山脈の山地に包み込まれています。また、九頭竜川や北川等の主要な河川が、海と山を結びともに都市を貫く緑の骨格となっています。このような本県の都市の自然的環境をふまえ、生態系やレクリエーションのネットワーク機能の強化に向けて、自然的環境の保全または整備を図ります。

※自然的環境を保全または整備する際には、自然環境データ等に記載されている優れた風致や景観および貴重な動植物の生息地や生育地等の地域を十分に考慮します。

- ・市街地内の緑地やその周辺に分布する田園、里山、風致林および鎮守の森等の緑地は、都市の良好な環境を保全するために重要な役割を果たしているため、身近な緑地として親しめるように保全や整備を図り、環状緑地の形成を促進します。
- ・郊外の田園における無秩序な市街化を抑制し、環状緑地の保全を図ります。
- ・里山から市街地への緑地の連続性を確保するために、自然環境と調和した河川等の整備や幹線道路の緑化等による緑のネットワーク化を図ります。
- ・開発動向をふまえ都市公園が不足している地域では、生態系やレクリエーションのネットワーク機能の地、防災機能も考慮し、適切な規模・誘致圏を有する都市公園の配置を図ります。また、既存の都市公園においては、施設の老朽化の状況、利用状況やニーズの変化、将来の土地利用計画をふまえ、改修または機能再編・拡充を推進します。

##### 3. 実現のための具体的都市計画制度の方針

- ・環境保全機能、レクリエーション機能、防災機能および景観構成機能等の確保や放射状型緑地の形成を勘案し、市街地内の低未利用地や歴史・文化的資源を活用しながら都市公園等を整備し、グリーンインフラの取組を推進します。
- ・また、既存の都市公園のストックを有効活用するための取り組みとして、適正な維持管理による公園施設の長寿命化、民間活力を活かした公営施設管理制度（Park-PPF）の活用を推進、都市公園の再編・集約化を推進します。
- ・都市内の自然的環境を保全するために、優れた風致や景観および貴重な動植物の生息地や生育地を有する緑地において、開発の動向や建築物の立地状況を勘案して、風致地区や緑地保全地域等の活用を図ります。

#### ②都市公園等の施設として整備すべき緑地の目標

市街地内の身近な緑地を確保するため、都市公園等の施設として整備すべき緑地の目標量を次のように設定する。

公園種別	整備状況 (H12)		整備目標量 (H28)	
	供用開始面積 (ha)		一人当たり面積 (㎡/人)	
	住居基幹公園	近隣公園	地区公園	総合公園
基幹公園	49.0	1.9	2.0	2.0
	33.5	1.3	2.0	2.0
	11.0	0.4	1.0	1.0
	83.4	3.3	11.0	11.0
運動公園	31.3	1.2	2.5	2.5

※整備状況で示す供用開始面積には、開発行為で整備した公園等は含まれていない。

#### (3) 主要な緑地の配置の方針

- 環境保全機能、レクリエーション機能、防災機能および景観構成機能をもつ緑地を確保する観点から、特に市街地内で、まとまった田園、里山および河川等に近接せず、緑地が少ない地区に、都市公園の整備や道路の緑化等を促進する。
- 市街地内やその周辺に分布する田園、足羽山等の里山、屋敷林や鎮守の森および九頭竜川や足羽川等の河川等の緑地は、都市の良好な環境を保全するために重要な役割を果たしているため、身近な緑地として親しめるように保全や整備を図る。
- 里山から市街地への緑地の連続性を確保するために、環境に配慮した九頭竜川等の河川の整備や幹線道路の緑化等による緑のネットワーク化を図る。

#### (4) 実現のために必要な具体的な都市計画決定の方針

##### ①施設緑地（都市公園等）

環境保全機能、レクリエーション機能、防災機能、景観構成機能および防犯機能の確保や放射状型緑地の形成を勘案し、用途地域内の未利用地や歴史・文化的資源を活用しながら都市公園等を整備する。

##### ②地域間緑地（風致地区、緑地保全地区等）

都市内の自然的環境を保全するために、優れた風致や景観および貴重な動植物の生息地や生育地を有する緑地において、開発の動向や建築物の立地状況を勘案して、風致地区や緑地保全地区の活用を図る。

#### (5) 主要な緑地の確保目標

概ね10年以内に整備する予定の10ha以上の都市公園を以下に示す。

所在地	公園名 (10ha以上)	計画面積 (ha)	H12までに供用開始の面積 (ha)	H22までに供用開始予定の面積 (ha)
福井市	福井市総合運動公園	52.0	6.4	41.0



## 公園に関する社会情勢

### ■幸福度日本一ふくい・日本一幸福な子育て県「ふく育県」

「全47都道府県幸福度ランキング2024年版」（一般財団法人日本総合研究所編）において、福井県が総合1位と、12年連続の「幸福度日本一」となった。福井県は、雇用環境があり、失業率が低く、働く女性や高齢者の割合が高く、**子どもたちは家族や地域に見守られながら安心して勉強や運動に打ち込める環境**があり、学力・体力の高さにつながっている。

また、福井県は、日本一幸福な子育て県「ふく育県」を目指し、多様な子育て支援を行っており、その中の施策の一つとして「**老朽化した遊び場等の修繕や改修を進め、安全で楽しいこどもの遊び場環境づくり**」を進めている。

出展：幸福度日本一ふくい（福井県）

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/koufukudo.html>

出展：福井県子ども・子育て応援計画（福井県）

[https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kodomo/fukui\\_kodomo\\_plan.html](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kodomo/fukui_kodomo_plan.html)

#### 85の統計指標の総合評価で12年連続の幸福度日本一

						順位	2024年版 (85指標)		
順位	2014年版 (60指標)	順位	2016年版 (65指標)	順位	2018年版 (70指標)	順位	2020年版 (75指標)	順位	2022年版 (80指標)
1位	福井県	1位	福井県	1位	福井県	1位	福井県	1位	福井県
2位	東京都	2位	東京都	2位	東京都	2位	富山県	2位	石川県
3位	長野県	3位	富山県	3位	長野県	3位	東京都	3位	東京都

一般財団法人 日本総合研究所「全47都道府県幸福度ランキング2024年版」

分野別では、「教育」「仕事」「生活」が充実  
子ども・子育て、経済的豊かさ指標でも上位

教育分野 1位		仕事分野 4位		生活分野 9位	
不登校児童生徒率 (低い方から)	1位	大卒者進路未定率 (低い方から)	1位	待機児童率 (低い方から)	1位
学力	2位	若者完全失業率 (低い方から)	2位	一人暮らし高齢者率 (低い方から)	2位
社会教育費	2位	高齢者有業率	4位	生活保護受給率 (低い方から)	4位

#### 子ども・子育て指標

子どもの運動能力	1位
子どもの チャレンジ率	2位
家庭内育児 バランス	3位

#### 経済的豊かさ指標

一人あたり県民所得	3位
勤労者世帯 可処分所得	4位

一般財団法人 日本総合研究所「全47都道府県幸福度ランキング2024年版」



## 2 子育てのワクワク感を増大

### ○家族で子育てを楽しむ風土づくり

こどもたちの健やかな育ちを支える全天候型遊び場等の整備推進

・県内17市町と連携し、全天候型遊び場の整備を進めるとともに、公立施設の老朽化した遊び場等の修繕や改修を進め、安全で楽しいこどもの遊び場環境づくりを進めます。  
また、家庭、地域、学校を通じたこどもの読書活動を推進し、こどもたちの健やかな育ちを応援します。

【主な事業】	こどもの遊び場整備事業
	総合グリーンセンターの遊具の修繕等
	こどもの読書活動推進事業



## ■ 当園の状況

・幾久公園に関する現状

---

## 幾久公園に関する現状

### ■当初の位置付け

幾久公園基本計画設計作成業務委託報告書P18より抜粋〔昭和55年12月〕

#### 6-1 基本方針

社会的条件、現況利用状況、敷地条件、前提条件を踏まえ本計画地に必要とされる中心的性格は以下の4点に大別することができる

- ①現状のスポーツレクリエーション活動の場としての働き。
- ②博物館を併設する事から教養文化の場としての働き。
- ③地区住民に対する余暇活動の場としての働き。
- ④都市環境保全と防災の観点から緑の供給の場としての働き。

※S55基本計画において「駐車場」は計画されているが、「基本方針」や「施設内容の検討」、「公園機能」では明記されていない。しかし、今回駐車場は機能として重要であることから、現状確認と評価に含める。

### ■現状の確認

- ①300mトラックは平日にはグランドゴルフやウォーキング、幼児・児童の遊び・散歩、高校生の部活動、休日には家族連れで遊ぶ姿が見られる。テニスコートは朝から利用されている。
- ②公園の中心施設、また公園と博物館の導入部として、奥行と景観の変化をもった形態となっており、シンボルの噴水が整備されている。
- ③博物館東面のコーナーに遊び場が整備されている。また、緑陰にベンチや、トイレ、日時計、パーゴラ、遊歩道があり、地域住民をはじめとした余暇活動に使われている。
- ④敷地外周部には幹線道路からの緩衝帯として、また休養ゾーンにも多くの樹木が繁茂している
- ⑤駐車場は博物館と公園の共用で全86台、駐輪場は各入口に整備されている。



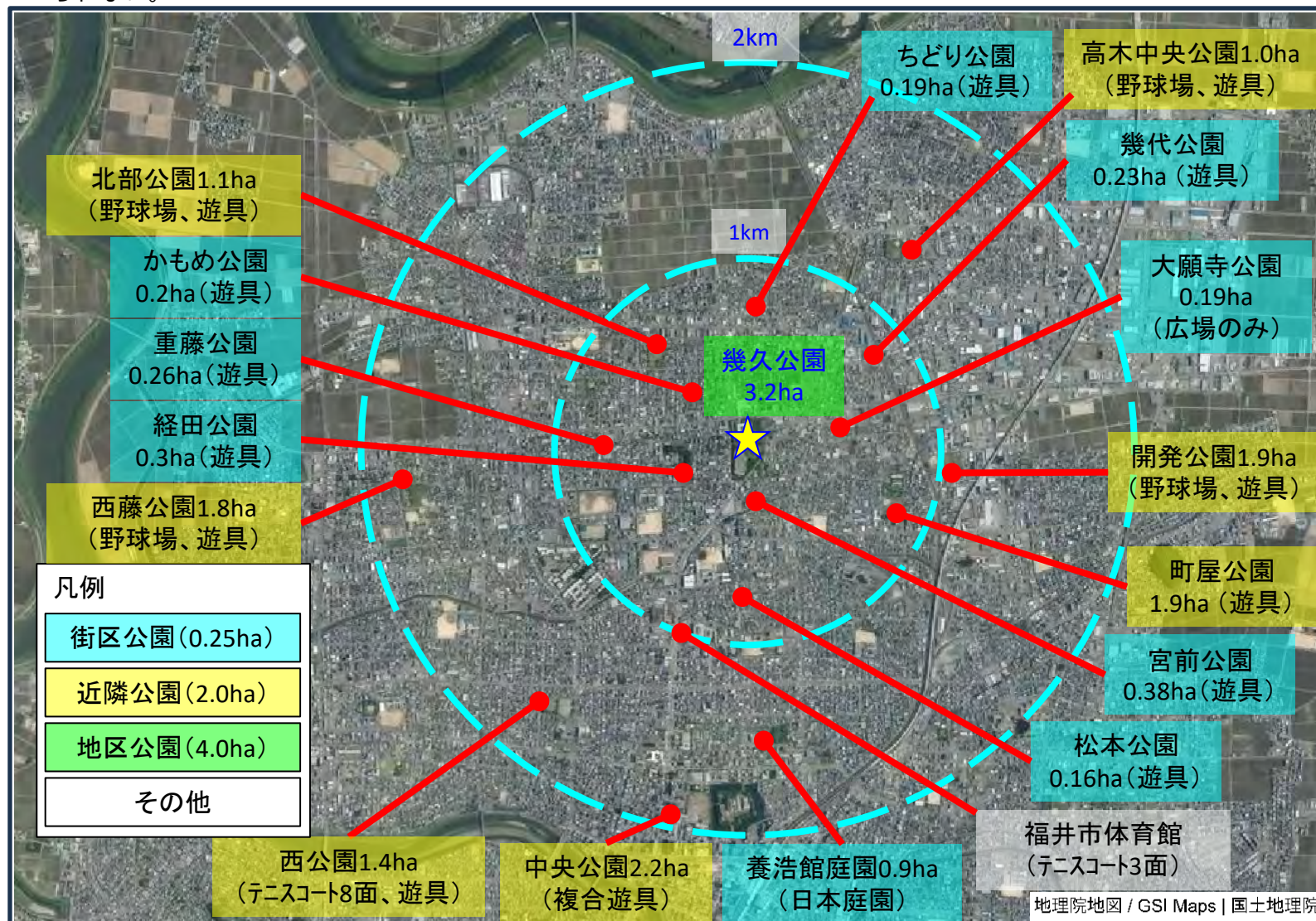
### ■現状の評価

- ①トラックの水はけが悪く滑る。幅跳び用砂場・走路は損傷があり、使用に支障あり。住宅地が近く、音等に配慮が必要で、舗装や擁壁等に損傷がある。  
⇒様々な屋外スポーツ活動に利用されているが老朽化が激しく、継続的な利用にはリニューアルが必要。
- ②噴水は、維持管理コスト大のため夏季限定利用となっている。稼働させてない時には配管がむき出しで、段差もあり危ない。公園利用者から見える場所に博物館の展示案内がなく、公園と博物館に一体感がない。  
⇒博物館と公園は併設されているが連携・一体感はなく、公園が教養文化の場とはなっていない。
- ③遊歩道には根が浮き上がり、多くのベンチが損傷し、トイレは和式しかなく清潔感がない。  
夕暮れ時は園内が薄暗くなり、不審者の情報もある。  
⇒地域の利用者が安全・安心に、余暇活動を行える場となっていない。
- ④樹木が密集しすぎており、公道上に枝がはみ出し、落葉もあり、苦情がある。ボランティアの方々が園内の清掃に協力してくれているが、清掃が追い付かず、維持管理に苦慮している。  
⇒多くの緑を供給しているが健全な樹木状態ではなく、適切な都市環境を保全していると言い難い。
- ⑤博物館のイベント時には駐車台数が足りないほど利用者が多く、護国神社の駐車場を借りている（20～30台ほど）。また、バスの専用駐車場がなく、一般車駐車場に縦置きするが、出入りも大変。駐輪場は老朽化している。  
⇒常に満車ではないが、バス利用も困難であり、駐車利用・駐輪利用に対して支障がみられる。

## 幾久公園に関する現状

### ■ 幾久公園周辺の公園立地現況

幾久公園は「地区公園(3.2ha)」だが、幾久公園の周辺2km圏に同規模の都市公園はなく、小規模な公園や小型遊具を有する公園が多い。野球場やテニスコートを有する公園はみられるが、トラックを有する公園は幾久公園以外にはみられない。



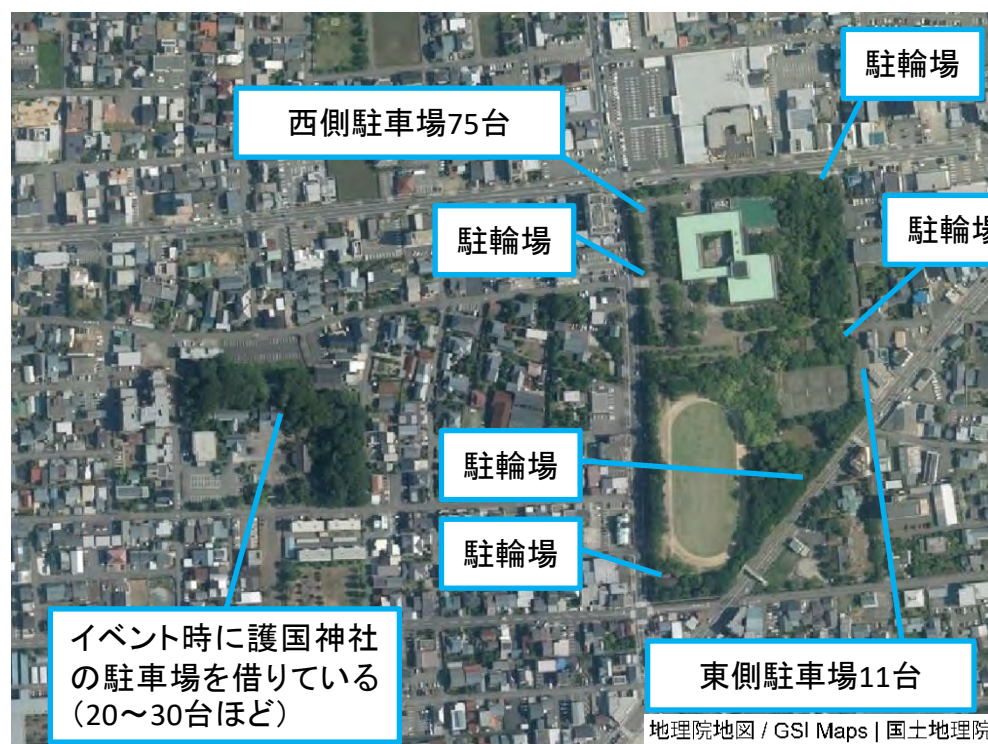


## 幾久公園に関する現状

### ■ 歴史博物館・幾久公園の駐車場

現在、歴史博物館と幾久公園の駐車場は合計86台設置されているが、博物館の催しの際に満車になることもあり、近隣の護国神社の駐車場を借用している。反対に護国神社の例祭時には、博物館の駐車場を貸すなど、相互協力している。

また、近隣に公共の駐車場はなく、現行の駐車場には館内関係者駐車場も含まれており、**大型バスが駐車できる専用のスペースはない**（バスは事前連絡の上、一般車駐車場の一部を利用して駐車している）。下記の駐車台数の考え方による年間利用者規模は2024 (R6) 年の博物館利用者数と比べても、足りない状況であることがわかる。



地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院

#### 【参考】駐車場台数の考え方

駐車台数86台／  
 {ピーク日集中率1.0%  
 × 自動車分担率80%  
 × (1／1台あたりの同乗者数2.5人)  
 × (1／駐車場回転率2.1)}  
 ≒ **年間利用者数5.6万人規模**

≦ **博物館利用者R6: 約6.9万人**

※「史跡を活用した国営公園の整備検討業務報告書（国土交通省、H19年度）」を参考に算出

[https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudokei\\_kaku\\_fr4\\_000008.html?utm\\_source=chatgpt.com](https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudokei_kaku_fr4_000008.html?utm_source=chatgpt.com)



## 幾久公園に関する現状

### ■ 電車・バス・車に次ぐ新しい交通手段「ふくチャリ」

全国的にも拡大している「シェアサイクルサービス」(全国で2022年末時点で366都市で導入)は、福井市においても2023年(R5)3月よりサービスが開始された。また、サイクルポートは順次拡大しており、**2025年(R7)9月11日には「幾久公園ポート」が新たに開設された。**

出展：ふくチャリ  
<https://fuku-chari.com/>



地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院